

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1746号 2004年09月06日(月)

## 《 a wandering and low-energy campaign for Kerry 》

今週のレポートの主な内容は以下の通りです。

1. まだいくつかの不確定要素はある。しかし秋の陣に突入した米大統領選挙は明らかに「ブッシュ優位」に振れつつあり、現状では来年からの次の4年間もアメリカの大統領はジョージ W ブッシュになる可能性が強い。これはケリーが一番争点としたテロ対策など安全保障の面で、「自分の方がブッシュよりも優れている」という主張を国民に納得させることに失敗したのに加えて、ブッシュの弱味である経済などの面できっちりとケリー色の未来図を打ち出せていないからである
2. そのアメリカ経済は、引き続きグリーンズパンが言うところの「soft-patch」の終了を確認できないままに推移している。市場は今後の米経済の強さ回復に確信を持ってない状況が続いている。8月の雇用統計も、事前に下がっていた予想のバーに比べれば印象としては良いが、人口増を考えると毎月15万人の雇用増加は必要とされるアメリカ経済の最低雇用増ラインを下回る14万4000人増にとどまった。「soft-patch」状態は続いている
3. 日本経済についても減速懸念は引き続きある。それが日本の株式市場の気迷いにつながっていると言って良い。こうした状態はしばらく続こう。しかし、景気の弱さはアメリカ程顕著ではない。世界的に、為替、株、債券などの市場は米大統領選挙を睨んで揉み合い状態となっている。今週はグリーンズパンの議会証言や日本の機械受注の発表があり、またアメリカ市場もレーバーデー明けで秋相場入りとなる

米共和党大会が終わったこの週末の一番強い印象は、「米大統領選挙の優劣が、かなり明確にブッシュ優位・ケリー劣勢に振れてきた」というものだ。それは何よりも共和党大会が終わった直後の米タイム、ニューズウィーク誌などの世論調査で、「ブッシュ支持52%、ケリー支持41%」と二桁の差が付いたということに示されているし、週末に読んだアメリカのいくつかの新聞記事に出ている「米民主党の焦り」にも示されている。

ニューヨーク・タイムズの日曜日の記事には「Democrats Urge Kerry to Turn Up Intensity of Campaign」という見出しの記事があった。どういう事かということ、「米民主党

の幹部はケリー大統領候補の選挙運動が気迷いかつエネルギー不足状態( a wandering and low-energy campaign. )であり、締め直して欲しいと要請した」というのである。民主党は明らかに劣勢を感じ取っている。

なぜケリーは劣勢か。それはケリーが一番力を入れた「テロ対策における信頼できる指導者」のイメージ作りに失敗したためだ。ケリーは民主党大会の指名受諾演説の半分以上を費やして、「We can do better」(我々の方がうまくやれる)と主張した。持ち出したのはベトナム戦争などでの戦歴だ。しかしこれはワークしなかった。なにせベトナム戦争は昔のことだし、その後にケリーのベトナム戦歴は疑念に満ちたものだという本も出版されて、それがベストセラーに何週間もなった。私が見るところ、ケリーは過去を強調しすぎた。もっと現在と今後の能力を示す必要があったのだ。しかし挑戦者にはそれは難しい。

民主党幹部はケリーに、「もっと経済を含む内政問題に焦点を当てろ」と忠告しているらしい。ケリーの指名受諾演説の「Help is on the way」の部分だが、ブッシュはその先回りをした。指名受諾演説の前半の大部分を、ケリーをいなすように内政問題に割いたのだ。一期目は十分に出来なかったが、少なくとも二期目は内政に力を入れるという姿勢を明確に示した。

もちろん、共和党大会に反対する反ブッシュの大規模デモがあり、逮捕者が多数出たことで示されたとおり、ブッシュ本人やブッシュを取り巻く人々の考え方には米国内でも強い反感がある。しかしケリーに国内世論が傾かないのは、同候補にブッシュを乗り越えるだけの魅力がない、魅力を打ち出せていないからだろう。ケリーは11月の大統領選挙に勝つためには、それをしなければならない。しかし今の状態で言うと、それはなかなか難しそうに見える。

これとの関連で言うと、週末のヘラルド・トリビューンには「On outside looking in, world talks about Bush」という興味深い記事があった。これは「ブッシュ優位」になった米大統領選挙に関して、世界の主要なマスコミがどう見ているか、を特集したもの。世界の嘆き、ブッシュともう4年付き合うことになる可能性が強くなった事への感想・意見が出ていて興味深い。

英ガーディアン紙が今回の米大統領選挙を「a world election in which the world has no vote」(世界が投票権を持たない世界選挙)と表現しているのは卓見だろう。「the whole world were voting in the American election as pundits, politicians and average blokes on street corners around the world took sides」(世界中がブッシュの政策の是非を巡って自らの立場を決め、投票権もないのに心で投票している)という表現も的を射ている。アメリカが単独行動主義に近い行動をとって世界中が関心を持たざるを得ない戦争をイラクで起こし、その後遺症が今も続いているから、世界中の人間がアメリカの大統領選出に参加したい気持ちになっている。しかし、アメリカ国民以外はアメリカの選挙に参加できない。

オーストリアのDer Standardという新聞はこの週末にあたかもブッシュ再選が既定事

実であるかのように扱った上で、「あと4年間のブッシュのアメリカ大統領というのは、大部分のヨーロッパの人間にとって極めて不愉快なことだが、しかし我々はそれに慣れなければならない」と書いたそうだ。同紙は言う。「despite all his flaws, he comes over as a strong leader and John F. Kerry doesn't.」(欠点だらけだが、ブッシュは強いリーダーとして受け止められている。ケリーはそうではない)

ブッシュの欠点とは何か。フランスのル・フィガロは、「Bush as "the Texan" who stood astride the canyons of Manhattan "like a block of certainty, who sees the world in black and white" and who appointed himself "the self-assured head of the resistance of good against evil."」とブッシュを表しているが、これは世界のかなりの人が同意し、その是非を論じる点だろう。「the Texan」という言葉には、「(フランス人ほどには)世界を知らないテキサスの田舎者」という軽蔑が込められている、と思う。フランスらしい。

「black and white」「good against evil」はブッシュの思考形態として良く使われる表現だ。ブッシュの指名受諾演説を聞いていれば、ル・フィガロがブッシュを「a block of certainty」(確実性の柱)のように振る舞う「the self-assured head of the resistance of good against evil」(「悪」に抵抗する「正」の自己自信に満ちた頭領)という受け止め方をするのは理解できる。

しかし、いずれにせよ世界とそのマスコミは善し悪しの問題は別にして、ブッシュの再選を織り込みつつある。あたかも既定事実であるように。

### 《 focus on economy 》

筆者はこのままブッシュがケリーに先行した状態が続けられるのかの一つのポイントは経済だと考える。多少の経済の揺れではブッシュ優位は揺るがないが、それでもケリーには経済(鈍い伸びの雇用や双子の赤字問題など)を「失政のツケ」とし、ブッシュを突く余地はある。

その最初の重要統計は、先週の金曜日に発表された米8月の雇用統計だった。グリーンパンの言う「soft-patch」の深度と継続時間について「長期化」の懸念が強まり、雇用の創出に疑念が日に日に強まる中での、つまり予想のバーが引き下げられる中での雇用統計発表は、非農業部門の就業者数の増加14万4000人、失業率の5.4%への低下という結果になった。バーが下がっていた分だけ、市場はドルの買い戻しに入り、債券市場では債券が売られて指標10年債の利回りは4.29%に上がった。今月の9月21日の次回FOMCでは「利上げはある」との見方が強まっているが、この点については今週のグリーンパンの議会証言が一つの判断材料になるだろう。

もっとも、「予想よりは良い」というレベルで8月の雇用統計が特別良いわけではない。そもそも先進国の中でほぼ唯一と言って良いほど人口が増え続けているし、今後も増える見通しのアメリカでは、「毎月15万人は雇用が増えてなければ満足な雇用水準を維持できない」と言われている。14万4000人はそれを下回っている。過去12ヶ月を見ると、

毎月雇用は増えているが、月間15万以上の雇用増となったのはたったの4ヶ月だけである。アメリカ経済の雇用創出力はまだ弱い。

ケリーはこの点を、「大恐慌以来、当初当選時に比べて雇用減の中で再選を迎えるのはブッシュが最初の大統領」と非難しているが、これは当たっている。過去一年間の米経済の雇用創出数は170万人に達した。しかし、2001年の1月のブッシュ就任時に比べると、現在の米雇業者総数は依然として90万人分減っている。ブッシュが、この不足分を11月の選挙までに埋め合わせたと主張できる可能性は少ない。

ケリーは残る期間に、ブッシュに経済を論点に形勢を逆転できるか。筆者が見るところ、ケリーの経済観には決定的な欠陥があるように見える。「Help is on the way」が経済に関わる国民への基本的メッセージだ。この点については、既に今までのレポートで触れた。しかし筆者が見るところ、それは「世界経済の大きな流れ」を見誤っているか、選挙民にいらぬ夢を売っているように見える。これに対して、ブッシュの経済観を彼の指名受諾演説に見る限り極めて適切なものである。彼は言う。

**「The times in which we live and work are changing dramatically. The workers of our parents' generation typically had one job, one skill, one career -- often with one company that provided health care and a pension. And most of those workers were men. Today, workers change jobs, even careers, many times during their lives, and in one of the most dramatic shifts our society has seen, two-thirds of all moms also work outside the home.**

**This changed world can be a time of great opportunity for all Americans to earn a better living, support your family, and have a rewarding career. And government must take your side. Many of our most-fundamental systems -- the tax code, health coverage, pension plans, worker training -- were created for the world of yesterday, not tomorrow. We will transform these systems so that all citizens are equipped, prepared -- and thus truly free -- to make your own choices and pursue your own dreams.** (要旨は、労働環境など時代の方が変わったのだ。昨日にではなく、明日に備えねばならない。全ての人が自らの選択と夢を追える力を持つ必要がある)

この文章を見ても、ブッシュの方が少なくとも今の世界経済をしっかりと認識していると見るのが可能だ。国民に安易な「政府からの支援」を約束していない。その点が評価できる、と筆者は考える。だからケリーのように軽々しくオフショアリング(海外事業展開、雇用の流出)を非難するようなことをブッシュは言っていない。

ブッシュの指名受諾演説にあるこの二つのパラグラフは、「Americans」を「Japanese」に入れ替えれば日本の総理大臣が言ってもそのまま使えるし、認識として正しい。こういう

ところは、経済をいじくり回そうとしているかのように見える民主党より筆者は賛成できる。

こうした基本的な考え方の面から見ても、ケリーが今後の劣勢をひっくり返すのは、相応な力仕事だということが予想できる。

今週の主な予定は以下の通りです。

9月6日(月)	4～6月法人企業統計 米国市場休場(The Labor Day)
9月7日(火)	7月景気動向指数 ECB理事会 米議会再開 米議会予算局が年央経済改定見通し公表
9月8日(水)	日銀金融政策決定会合(～9日) 米ページブック グリーンズパン議長議会証言(米下院予算委員会、景気財政見通しで)
9月9日(木)	英中銀金融政策決定会合(～9日) 7月国際収支 7月機械受注 福井日銀総裁定例記者会見 米8月輸出入物価指数 米7月卸売在庫 米7月シカゴ連銀製造業指数
9月10日(金)	4～6月GDP(2次速報) 8月企業物価指数 8月全国消費動向調査 米7月貿易収支 米8月生産者物価指数
9月11日(土)	川口外務大臣、訪中(～13日) 米同時多発テロから3年

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。土曜日は夕方から酷い雨になりました。日本全国のどの地点で雨が降ったかは知りませんが、少なくとも東京は凄い雨だった。1メートル歩くのにも苦労した。日曜日でも冴えない天気。

しかし、日曜日は素晴らしいものを見ました。現地時間土曜日のシカゴでの対ホワイトソ

ックス戦でのイチロー。すごいなあ。ちょっと遅く起きてBSを見たら、試合をしていた。しばらくしたらイチローがそれまでで既に4 - 4だと知って、そのまま見ました。イチローの第五打席。一塁手の頭の上をイチローの打った球がワンバウンドで大きく抜けていった。この日5本目のヒット。

5 - 5も驚きですが、私をもっと驚いたのはパラパラとシカゴのファンが拍手をしながら立ち上がり、直ぐに球場全体をスタンディング・オベーションが包んだこと。敵地ですよ。シアトルのセーフコ球場ではない。

ファンもよく知っているんですよ。イチローが大リーグ記録に挑戦していることを。日曜日も試合があって、イチローは4 - 1。あと26試合ですか。日曜日の試合で224本に達したので、記録達成の可能性は非常に高まった。「5 - 5」が打てるというだけで、記録はぐっと近づく。一シーズンのヒット数の大リーグ記録は257。残り26試合で一試合2本ヒットを打てば、イチローの記録は276になる。従来の大リーグ記録を20近くも上回る。それだったら、チームの順位に関係なく、リーグMVPの可能性が出てくる。

去年の秋のイチローは見ていても気の毒でした。自分でも「呼吸がよく出来ない」と言うほど苦しかったと後で懐古している。今年はどうかなと思っていたら、見事に修正して打ちまくっている。ホームランが崇められるアメリカの野球界で、改めてヒットの価値を見せているように見える。

イチローは8月にはチームの想像を絶する不振にも関わらず、月間MVP。日本は凄い男をアメリカの大リーグに放出しておりますな。土曜日の試合は、先頭打者のイチローが5 - 5打ってもマリナーズは負けた。イチローをワールド・シリーズに出してあげたい。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤 (E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com)) が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》